

平成 19 年 10 月 23 日

白馬村新ごみ処理施設を考える連絡協議会  
会長 宮田 温巳 殿

白馬村長 太田 紘熙 印

9 月議会での村長の答弁について  
—公開質問に対する答え—

1. 署名に対する村長の態度は真摯か  
A 約 4000 筆に及び村民の署名は重く受け止めますし、4000 とおりの思いが込められているものと考えています。
  
2. 建設計画は白馬だけの問題ではない、との発言はまともだが  
A 今回のゴミ処理施設については、北アルプス広域の事業として進められておりますことから、白馬村だけの問題でないわけでありますが、大町市小谷村の取り組みについては、それぞれそれぞれの市村が対応すべきものと思っています。
  
3. 活断層の問題は専門家を入れなければ判断つかないのか  
A 貴会提出（平成 19 年 9 月 28 日付）の意見書 1 記載されている小坂教授の講演（7 月 9 日）内容は、あくまでも調査をしなければわからないというものであったはずで、また、講演会を主催した団体からも調査結果を早く村民に公表するよう要請書が提出されているところですし、白馬村議会からも予備的調査実施すべしの意見が示されたところでもあります。
  
4. 少数意見を排除する村長の言葉遣い  
A 全員協議会での審議の経過内容結果について説明したもので、出席された議員は当然そのことを理解しているものとして答弁したものです。
  
5. 特定住民への事前説明は、「混乱を避けるため」といいますが  
A 私どもとしては、今回の手法を善として進めたものであります。
  
6. 議会で反論権のないごみ連協を叩く無神経はどう説明するのか  
A 叩くと言う考えは全く持っていません。ただありのままを述べさせていただきました。貴会の方が先に情報提供して 8 月 28 日の広域議会での質問材料にさせたのではないですか。
  
7. 白馬村をダメにしているのはどちらか  
A ゴミ問題については滞っていますが、日々村民の幸福のため一生懸命取り組んでいるつもりです。